

アンペックスが米海軍の次世代赤外線対策評価ポッドに関する“AICES”に従事

アンペックスデータシステム社は、カリフォルニア州、Point Mugu にある NAWC-WD (Naval Air Warfare Center – Weapons Division: 海軍空中戦センター、兵器部門)から、航空機用赤外線対策評価 (AICES)ポッドのアップグレードの為に航空機搭載及び地上データ収集システムのサプライヤーとして選定されたことを発表しました。次世代航空機ターレット赤外線計測システム (Airborne Turret Infrared Measurement System – ATIMS) のキーコンポーネントとして、多チャンネルの HD ビデオ、高速シリアル、バスデータを同時に記録する事はこのようなミッションには非常に重要になっている。このポッドで計測されるフル帯域の赤外線データを記録する為にアンペックスが供給するソリッドステートレコーダは、4 台の miniR700 です。

「AICES プログラムはミッションシステムと計測記録の両方の要素を交差させるもので、miniR700 の持つ順応性のある設計構造が、これをフルにサポートするでしょう。」と、John Hardy (Amplex Business Development Manager) は、アンペックスの本プログラムに対するソリューションを評して述べています。

アンペックスは、航空機搭載用データ記録システムに加えて、ミッション終了後のデータダウンロード、データ解析、データ保管のサポートの為に地上システムとして、RMDs720 を供給します。RMDs720 は、地上用のデータプロセスシステムで、miniR700 に見られるような、将来の成長にあわせて拡張可能な構造や、アンペックスの持つ、その他の堅牢型データ記録装置をサポートします。堅牢な COTS シャーシをベースとして、RMDs720 はローカル及びネットワークデータ普及操作をサポートする様に構成できます。

miniR700 は、小型軽量で安価なパッケージを要求する市場に対して、最新の航空データ収集技術をもたらします。アンペックスのマーケティングマネージャー、Bob Smith によれば、「AICES ポッドには、miniR700 と RMDs720 がシステムとして使用される。複雑な設定が不必要な “turn-key solution” がまさにこれです。我々は、アンペックスのレコーダが採用された事を非常に喜んでおり、かつこの重要なプログラムに関して、海軍の Point Mugu チームをサポートできる機会を与えられた事に興奮している。」システムは今年度末に出荷が予定されています。

miniR700, RMDs720 は、ともに現在、多数の米国及び同盟国軍で運用されており、フライトテスト、ISR (Intelligence, Surveillance and Reconnaissance)や、その他の先進のセンサー用途に対して高性能のデータ収集能力を提供しています。

2010年8月11日、カリフォルニア州レッドウッドシティ発

原文は[こちら](#)*

*原文に於いて、製品名「RMDs720」が「DSRs720」と誤植されています。

■アンペックス・ジャパン株式会社概要

会社名：アンペックス・ジャパン株式会社

代表取締役社長：柳生田一範

資本金：1億円

URL:<http://www.ampex.co.jp/>

■お問い合わせ

アンペックス・ジャパン株式会社 [コンタクト窓口](#)